

まいど！ざいむ局です！



関西元気企業

安心して子育てができるまちを目指して
～女性起業家が考える地方創生～

今回ご紹介する企業は、堺市北区に所在する株式会社CLCです。

同社は放課後児童対策事業（学童保育）を主な事業としており、英語教育や様々な体験学習を取り入れた学童保育事業に取り組んでいます。

また、砂田社長は「堺市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の有識者として、同市の地方創生にも参画されています。

「子どもたちや保護者が安心して暮らし、子育てができるまち」を目指している砂田社長。そんな砂田社長の創業から現在までの道のりや経営理念、地方創生に対する思いに迫ります。

企業情報

名称 株式会社 CLC
所在地 大阪府堺市北区長曾根町 46
アクシスクリエイティブ
センター301
設立 2007年 代表者 砂田 千秋
従業員 28名 資本金 9百万円
HP <http://clcjapan.com/>

●株式会社CLC設立のきっかけは

前職である英会話スクールで、講師としての業務のほかに語学学校や国際学校の運営を担当し、「雇う側」と「雇われる側」の両方の仕事を経験しました。現場から運営までの仕事をひと通り経験していくうちに、学校づくりや運営に興味を持ち、「もし私が経営者だったら」と、自然と独立を意識するようになりました。

平成17年に小さな語学教室を開設し、1年半ほど語学教室を経営していたところ、前職の英会話スクールから「堺市から受託している放課後児童対策事業を手伝ってほしい」と言われ、語学教室の経営と並行して放課後児童対策事業のお手伝いもすることになりました。



株式会社CLC 砂田社長



放課後児童対策事業の様子①

そんな中、平成19年に堺市が別の区でも放課後児童対策事業の民間委託をするという話を聞き、「子どもたちが安全に楽しく過ごせる場所を作って地域に貢献したい!」と思い、応募を決意しました。

応募の際は、前職や子育ての経験を活かして、ただ単に預かるのではなく、英語教育や様々な体験学習を取り入れた学童保育を堺市に提案しました。その結果、見事提案が採用され、本格的に起業してこの事業を始めることになりました。

今では、堺市内の小学校の空き教室など23教室で約1,500名の児童に対して指導員約200名で英語教育を取り入れた学童保育を行っています。地域の子ども・就労家庭の保護者の方々が安心して暮らし、働ける環境を目指して日々試行錯誤しています。

●起業までの道のりについて、苦労した点などありましたか

正直に言うと、一人で語学教室を運営している私に放課後児童対策事業ができるとは思っていませんでした。「企画の提案だけでも」と思って応募した結果、提案が採用された時は本当に驚きました。採用されてからは、事業開始まで1ヵ月しかなく、とても忙しい日々だったことを覚えています。

まず、短期間で指導員を確保しなければならず、どうすればよいのか分からずとても困りました。しかし、幸いなことに既に堺市の契約職員として指導員をされている方30名が当社に移籍してくれることになり、なんとか無事に事業を開始することができました。

ただ、資金面については、堺市からの委託事業であったため、必要な資金は全て堺市からの委託金で賄うことができました。お金を借りることに不安があったので、持ち出しや借入金のない状態で起業できたことは恵まれたことだと思っています。

また、子育てに対して家族のサポートがあったことも仕事と子育てを両立する上では、非常にありがたかったですね。



放課後児童対策事業の様子②

●堺市女性起業家メンターに委嘱されていますが、経緯と活動内容を教えてください

堺市女性起業家メンター制度は、堺市ものづくり支援課がインキュベーション施設「S-Cube(※)」に委託して実施しています。当社も平成20年から「S-Cube」に入居し、起業や会社経営の専門家であるインキュベーションマネージャーの助けを借りながら、整った環境の中で「放課後児童対策事業」を始めとする様々な事業に注力することができました。

平成27年にS-Cubeを卒業しましたが、マネージャーの指導に支えられて事業に取り組めたことを振り返り、「私も人にアドバイスする力を身につけて、役に立ちたい!」と思い、メンターを引き受けました。これまで、S-Cubeから紹介された5名の女性起業家の相談に乗りました。双子自転車の開発や、デザイン事務所の設立、古着物の販売など、業種は様々です。相談内容は経理等の事務的な相談や、子育てとの両立についての相談もありましたが、精神的な悩みについての相談の割合が高かったように思います。

(※) S-Cubeは堺市、(独)中小企業基盤整備機構、堺商工会議所の出資により新事業創出促進法(現 中小企業の新たな事業活動の促進に関する法律)に基づき設立されたビジネス・インキュベーション施設。創業間もない企業や創業予定者をはじめ、堺・南大阪地域の中小・中堅企業の新事業へのチャレンジを含めた第二創業や、産学連携によるものづくりの高度化など、さまざまなタイプの新事業創造に対応したスペースを提供。

●「堺市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に有識者として参画することとなったきっかけ

堺市長も当社事業に注目してくれており、何度か市長自ら視察に足を運んでくださいました。そんな中、同市が「堺市まち・ひと・しごと創生総合戦略」で放課後待機児童の解消を掲げることとなり、私に有識者としてお声がかかりました。

堺市が掲げる放課後の待機児童数176人(平成27年5月1日現在)を平成31年にゼロとするという目標の達成のため、何かお役にたてることがあればと考え、お引き受けしました。



●総合戦略の推進に関してどのようにお考えですか

平成31年までに放課後の待機児童数をゼロにするという目標を達成するのは簡単なことではなく、単に受入児童の枠を広げるだけではこの問題の解決は難しいと思っています。

意見聴取の場で私がご提案した内容は、中心市街地である堺東駅前商店街の空き店舗を活用して、子どもからお年寄りまで多世代が交流することができる複合施設・共有スペースを造ることです。

この複合施設では、小学生には学童保育や語学学校などの教育の場、子育てをしている保護者には保護者同士や子育て経験者に相談ができる場、お年寄りには憩いとなる場を作りたいと考えています。多世代が集まり、交流・ふれあうことで放課後待機児童の解消につながるのではないかと考えています。

また、堺東駅前の商店街は、廃業した店舗が年々増えており、シャッターが目立つようになっています。活気を失いつつある商店街の空き店舗を活用して、多世代が集まる複合施設を造ることで、子どもやお年寄り、仕事帰りに子どもを迎えに来た保護者が集まり、商店街の活性化も期待できるのではないかと考えています。

●女性起業家へのアドバイスをお願いします

「できるか、できないか」ではなく「やるか、やらないか」を考えてみてください。新しいことに挑戦するとき、誰も「自分にそれができるか」と考えてしまいます。私自身もそうでした。ですが、自分で「やるか、やらないか」と考えれば、やるより他に選択肢はないですよ。おのずと心が決まってくるはずですよ。

自分で自分の能力に限界を造ることなく、何事も前向きに挑戦してください。



●今後の目標をお聞かせください

大阪府下の他市町村が当社の事業に興味を持ち度々視察に来られます。資金不足など民間委託に踏み切るのが困難とのお話もよくお聞きしますが、堺市以外の市町村でも同様の取組みが始まれば良いと思いますし、積極的に参加していきたいと考えています。

また、前職で国際学校の運営に携わった経験から、堺市に英語を中心にした学童保育や国際学校を設立したいと思っています。当社が現在取り組んでいる事業に「キッズチャンプ」というものがあります。堺市内の小学生を対象にした総合学童保育サービスで、学童保育、学習塾、習い事教室を一体化した点が評価いただき、多くの子どもたちが来てくれています。この「キッズチャンプ」における英語教育を土台とした、学校設立の夢に近づいていきたいと思っています。

<取材後記>

子どもたちが安心して暮らすことができ、保護者も安心して子育てができるまちを目指す砂田社長。お話される際の柔らかな笑顔の奥に「堺市をより良いまちにしたい」という強い思いが垣間見えました。

地方創生を考えるうえで、企業や市民の皆様をはじめとした地域が一体となって「地域の未来を真剣に考える」ことが非常に重要だと改めて実感しました。

砂田社長の目標と堺市のまちづくりがうまく結びつき、堺市がより一層「子どもたちや保護者が安心して暮らし、子育てができるまち」となるよう、当局に支援できることがないか、日々模索していきたいと思います。

また、砂田社長のおっしゃるように何事も「出来るか、出来ないか」を考えると、自分には出来ないかもしれないと悪い方に考えが及んでしまいます。しかし、出来るか、出来ないかはさておき、やってみようと考えれば不安が払拭され一歩前に進めるような気がします。仕事でも、プライベートでも、やってみようという前向きな気持ちで挑戦していきたいと思います。

(近畿財務局総務部総務課企画係 係員)

掲載している情報は、平成28年6月時点のものです。
掲載している写真は、同社よりご提供いただきました。